

平成 27 年 12 月 7 日

## 調査研修報告書（議員用）

報告者：横路政之

実施場所：合志市	実施日：平成 27 年 11 月 30 日
<b>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</b>  ・本市の生活交通を取り巻く現状は、利用客の減少などで厳しさが増している。また、広大な地域を高齢者等に配慮しながら運行していくのか等、課題である。 合志市では「合志市コミュニティバス回数券」事業という新しい発想で、利用客を増加する取り組みを始めておられる。その取り組みを視察した。	
<b>■参考とすべき事項</b>  ・利用客増加を目的にした「合志市コミュニティバス回数券」という名称で 100 円券×11 枚つづり。価格は消費税込みで 1,000 円という内容で、「乗り得クーポン」券を 1 枚付加し、そのクーポン券を市内の協力店で使用出来るようにした事業である。協力店のメリットは、顧客獲得のための費用を支出せず、消費者のお店選びのきっかけを作ることが出来る点である。	
<b>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</b>  ・本市においても利用客の低迷打開のために、上記のような仕組みを導入してもいいのではないか。プレミアム付きクーポン券と同様に、お得感を作り出す仕掛けも必要ではないか。	

平成 27 年 12 月 7 日

## 調査研修報告書（議員用）

報告者：横路政之

実施場所：百草園

実施日：平成 27 年 12 月 2 日

### ■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）

・農業を取り巻く現状は厳しさを増すばかりである。農業だけで生活をするには、いかに農産物に付加価値を付け、消費者の関心を引き販売するかにかかっている。今回視察した「百草園」は、30 年前から無農薬野菜にこだわり、現在では人を雇用するまでに規模を拡大、安定経営を続けておられる。その取り組みを視察した。

### ■参考とすべき事項

- ・完全無農薬栽培を実践されている。
- ・国の補助金を活用し研修生を受け入れ、後継の人材育成に力を入れている。（ナイジェリアの方が研修生として働いておられた。）
- ・多品種（60～70 品種）を、時期をずらしながら栽培している。
- ・販売先の中心は子育て世代。
- ・毎週、畑の状態をお知らせするチラシを発行している。

### ■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

・TPP の大筋合意をうけ、日本の農業は変革を迫られている。今まで通りのやり方では淘汰されていく時代に入ったと思う。本市には耕作放棄地など、無農薬栽培をする土地は多く存在する。付加価値を付けて消費者にアピールできる、無農薬栽培の仕掛けづくりが必要なのではないか。

平成27年 12 月 7 日

## 調査研修報告書(議員用)

報告者：横路政之

実施場所：宮崎県高千穂 がまだせ市場	実施日：平成27年12月1日
<b>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</b>  ・大志の会に同行するなかで、途中数か所の道の駅に寄り、施設状況などを視察した。	
<b>■参考とすべき事項</b>  ・どの道の駅も地元特産品を全面に出し、また、新鮮さを際立たせる工夫もされていた。商品の陳列もインパクトを重視した展示内容になっていた。	
<b>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</b>  ・高野の道の駅は今のところ順調であるが、順調なときほど、他の道の駅を視察するなどして研究し、独自性に変化を付けていくべきではないか。	

平成 27 年 12 月 7 日

## 調査研修報告書(議員用)

報告者：横路政之

実施場所：綾町・手づくりほんものセンター	実施日：平成27年12月2日
<b>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</b>  ・本市の農業を取り巻く環境が厳しさを増す中、「自然生態系農業の推進に関する条例」を制定し、町をあげて自然農業を推進している自治体を視察した。	
<b>■参考とすべき事項</b>  ・1988年に「自然生態系農業の推進に関する条例」を制定し、本格的な有機農業による町づくりに取り組んでいる。 ・自然生態系農産物の認証基準の仕組みを設け、手づくりほんものセンターで販売されている商品には認証シール（ゴールド、シルバー、銅）をつけ消費者に分かりやすく、安心できる商品を提供している。 ・町全体の有機栽培に占める割合はまだ多くないが、今後は拡大していくと感じた。	
<b>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</b>  ・「町が責任を持って健康な本物の野菜を提供していくシステムを確立しました。消費者の信頼のもと、安心できる農畜産物の生産・流通を通じて農村と都市との共生交流を深め、真に豊かで活力にみちた、親子三代が楽しく住める町づくりをめざして、更なる自然生態系農業の振興に取り組んでいきます。」と綾町町長は言うておられる。本市においてもこの様な視点は重要なのではないか。	